

# 定例教育委員会会議録

(令和7年12月12日開催)

岡谷市教育委員会

# 定例教育委員会【議事録】(要点筆記)

日 時 令和7年12月12日(金)9時30分～

場 所 やまびこ国際スケートセンター

署名委員 藤森教育委員、林教育委員

## 【次 第】

### ○ 開 会

### ○ 教育長報告

### ○ 議 題

1. 岡谷市立小中学校体験入学実施要綱(案)について【資料No.1】 (教育総務課)

### ○ 報 告

1. 令和7年度 学校完全閉庁日の設定について【資料No.2】 (教育総務課)  
2. 令和8年 二十歳を祝う会について【資料No.3】 (生涯学習課)  
3. 令和7年12月定例会の議案等について【資料No.4】 (各課)  
4. 令和7年9月の一般質問について【資料No.5】 (各課)

### ○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

## 出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、  
教育委員 小平 陽子、教育委員 林 慎太郎、教育委員 轟 美緒

## 事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課長 荻原 浩樹、  
教育総務課主幹指導主事 村松 晋  
生涯学習課長 三澤 達也、スポーツ振興課長 味澤 勝一、  
指導主事(ウェルビーイング実践校) 井出 誠一、  
教育総務課 教育企画主幹 西山 壘、学校教育主幹 新村 尚志、  
生涯学習課 青少年担当主幹 伊藤 史佳、教育総務課 主事 渡辺 凱

## <会議録>

### ○開 会

宮坂教育長

12月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は、藤森教育委員、林教育委員にお願いします。

### ○教育長報告

宮坂教育長

12月22日の冬至をもって、令和7年の二十四節気は終了する。本日は特に冷え込んだが、小井川小の子どもたちがスケートをする様子を見ることができ、喜ばしく感じた。

#### (1) 子どもたちの姿から

##### ① 合唱コンクール

11月11日に岡谷東部中学校の合唱コンクールおよび市内小中学校音楽会の最終がカノラホールで行われた。発表では、音楽に真剣に向き合う子どもたちの姿が印象的であり、朝練に励む姿や仲間と音を紡ぐ素晴らしさが語られた。1、2年生も良かったが、特に3年生各クラスの合唱と学年合唱「ジュピター」は圧巻で、中学生の音楽として初めて聴くほどの完成度であった。歌声や表情、取り組みの全てに、後輩が憧れる姿の具現が見られた。

##### ② 上の原小学校 焼き芋集会とトコトンウェルビーイング

11月18日に上の原小学校で焼き芋集会が行われた。この集会は単なる行事ではなく、井出先生を中心に推進されているトコトンウェルビーイングの「やりたいことを形にする」取り組みの一端であった。

##### ・見学した村松先生の報告

上の原小学校を訪問し、子どもたちが希望した火おこし体験やネイチャーゲーム、林の中を通る活動に参加した。また、小さな池を清掃し、近所から譲り受けた黒メダカを放流した。寒い中でも子どもたちは熱心に作業に取り組んでいた。校内では美術考古館の酒井館長による講座が行われ、子どもたちは工作を楽しんでいた。子どもたちの「やりたい」という思いを先生や地域の人々が支え、共に楽しむ意義深い集会であった。

##### ③ 岡谷田中小 公開授業研究会

11月28日に岡谷田中小学校で公開授業研究会が行われた。例年どおり愛教大名誉教授の清水先生を迎え、算数において教科書中心の授業展開が発表された。授業の様子を映像で確認したところ、中心教材が提示されると子どもたちが主体的に発言し始め、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。友達や教師の声に耳を傾けながら学びを深めていく様子が印象的であった。

##### ④ 未来塾

12月10日、岡谷東部中学校を最後に未来塾の閉校式が行われた。当日は中学生7名が参加し、校長のまとめの言葉を穏やかな表情で聞く子どもたちの姿が印象的であった。未来塾は岡谷独自の取り組みであり、小学校5年生を対象とした活動も含め、今後も大切に継続していく必要があると感じた。

##### ⑤ インフルエンザ流行期

インフルエンザが流行期に入り、市内でも複数の学校で学級閉鎖が行われている。例年より約1か月早い流行状況であるが、引き続き丁寧に対策を進めていきたい。

⑥ クマ出没情報と対応

11月に入り、川岸地区をはじめ市内各所でクマの目撃情報が確認された。該当校では、集団登下校や教職員による見守りを実施した。また、クマの生態理解や遭遇時の対応を学ぶ県の出前講座を開始し、9日に川岸小学校、15日に西部中学校で実施した。今後も市内各校で形を変えながら実施予定であり、子どもたちの安全・安心を引き続き重視していく。

(2) 生涯学習課から

10月24日の作品展に始まった令和7年度岡谷市文化祭は、12月7日の岡谷演劇祭をもって、全6部門が無事終了した。

① 市民舞踊祭

11月15日に行われた「市民舞踊祭」では、今年度新たな試みとして岡谷太鼓祭り踊り部門「みなこいわっさか」に出演した阿波踊り諏訪湖連や、小井川小学校4年生によるソーラン節の披露があった。また、歌舞伎俳優で岡谷市観光大使の市川笑野・市川右田六両氏の特別出演もあり、多くの来場者で賑わった。フィナーレでは市川笑野氏から「岡谷おどり」の成り立ちや歴史が紹介され、全出演者と来場者が一緒に「岡谷おどり」を踊り、満足感のある催しとなった。さらに、11月22日のおかや芸能フェスティバルでは、ベリーダンスや二胡、ウクレレ演奏など多様な団体が出演し、会場を盛り上げた。

② おかや演劇祭

市民文化祭の締めくくりである「おかや演劇祭」初日には、川岸小学校4年生による諏訪の民話を題材とした創作劇3作品が披露され、子どもたちは練習の成果を発揮し、ハツラツとした演技で来場者を楽しませた。三日間を通じて自主映画「田はひかる」の上映や朗読、舞台芸能なども行われ、市民文化祭は盛況のうちにフィナーレを迎えた。

10月24日から始まった岡谷市民文化祭は、多くの団体の参加に加え、小学生や歌舞伎俳優の特別出演もあり、市民のみならず市外からも多くの来場者が訪れ、充実した祭りとなったと感じている。

(4) スポーツ振興課から

① やまびこ国際スケートセンター

今年で31年目を迎えた「やまびこ国際スケートセンター」が11月22日にオープンした。当日は晴天に恵まれ、592名が来場した。オープンセレモニーでは早出市長の滑り初めに続き、ジュニアスケーターによるスピード・フィギュア両競技の模範滑走が披露され、華やかにスタートした。初心者向けスケート教室も行われ、子どもから高齢者まで多くの家族連れが初滑りを楽しんだ。連休中の3日間も天候に恵まれ順調に営業でき、今シーズンもスケートの普及と競技力向上に向けた各種事業に取り組む予定である。

○議 題

1. 岡谷市立小中学校体験入学実施要綱(案)について

<岡谷市立小中学校体験入学実施要綱(案)について、事務局より No.1 に基づき説明>

- 藤森教育委員 今回、体験入学に関する要綱を規則として明確に定める背景には、これまで同様のケースが繰り返し発生し、その都度個別対応してきた事情があり、教育委員会として一定の指針を持つ必要があったと考えられる。そこで、ここ数年において市内で体験入学を希望した児童がどの程度存在したのかを確認したい。また、第1条では海外からの一時帰国が示されているが、それ以外に想定しているケースがあるのかを併せて尋ねたい。
- 事務局（新村） 直近2年の実績として、令和6年度は8名、令和7年度は5名の体験入学希望者がいた。6年度と7年度の両年度にわたり、2名が継続して申し込みを行っている。令和7年度の内訳は、5名中4名が外国から日本文化を学ぶ目的で一時帰国中に利用したものであり、残る1名は国内のインターナショナルスクールに在籍し、岡谷市内への移住を検討する中で、学校教育や学校生活を知る目的で希望したものである。
- 小平教育委員 移住を含めた体験入学の要望があることは、子育て世帯の増加につながり、岡谷市が住みやすい街として認識されている表れであり、望ましいことであると感じている。海外からの一時帰国についても、駐在などの事例は身近に存在しており、今回要綱として制度化されたことは重要であると評価している。一方で、通訳配置ができない点については懸念があり、これまで日本語での意思疎通が困難な児童からの希望があったのか、またその際に保護者の同席や教員による対応など、何らかの形で対応できた事例があったのかを確認したい。
- 事務局（新村） 令和6年度と7年度の実績を見ると、外国人児童は令和6年度の1名のみである。それ以外は、日本人が海外在住から一時帰国したケースであり、母国語として日本語での意思疎通は可能であった。令和6年度の外国人児童に対する具体的な対応状況については、現時点では把握できていない。
- 宮坂教育長 約7年前、神明小学校において、オーストラリアから一時帰国した児童を受け入れた事例があった。その児童は母親の実家が岡谷市にあり、病気の関係で強い日差しや暑さを避ける必要があったことから来日したものである。使用言語が英語であったため対応が可能であり、困難な場面では母親が付き添う形で支援が行われた。その児童は学校教育に満足し、最終的には岡谷市への移住に至った。
- 小平教育委員 通訳等の配置はできないものの、保護者の付き添いや教職員による工夫など、可能な範囲で柔軟な対応ができることを示す記載があると望ましい。
- 事務局（両角） 要綱はあくまでルールとして明確に定める必要があり、体験入学は任意であることから、内容が緩やかになり学校側に対応義務を約束する形になることは避けていきたい。教育長が述べたように、特別な事情がある場合には臨機応変な対応を行う余地はあるが、それとは別に、要綱は要綱として規律を重視して定めていく考えである。
- 太田教育長職務代理者 第2条に「学校生活を送るために必要な日本語での意思疎通ができる者に限る」とあることについては、個別の事情に応じて柔軟な対応を行うことができる点で適切だと評価している。また、先ほどの実績報告から、思った以上に体験入学希望者が存在することも確認でき、今後も良い形で運用されることが望ましいと考えている。
- 事務局（両角） 一方で、許可を受け入れた場合でも、第8条にある「学校運営に支障がある場合には受け入れを中止し、許可を取り消すことができる」という規定については、具体的にどのような事例が想定されるのかを確認したい。
- 事務局（両角） 想定としては、例えば素行面に問題があり、通常の学校運営に著しい支障

- 事務局（両角） が生じる場合には、受け入れを中止し許可を取り消すことがあり得る。基本的なルールや規律が守られていれば、在籍自体は問題なく認められる。
- 轟教育委員 今回の要綱は、個別対応に頼るのではなく、ある程度統一した対応が可能となるよう定められていることは理解している。その上で、日数については原則30日、年度につき1回と定められているが、この基準の根拠や決定経緯について知りたい。例えば、遠方からの帰国児童であれば、夏と冬の両方で体験を希望する場合もあり得る。しかし、受け入れ側の準備負担も考慮すると、この日数や回数がどのような理由で決まったのか教えていただきたい。
- 事務局（参事） 30日という期間設定は全国の事例を参考に決められたものであり、県内外でこのような要綱を作成している自治体の事例を踏まえている。受け入れ期間は、海外の長い夏休みに比べ、日本の学校の学期構成や子どもたちの学習状況、現場の実務事情を考慮した設定である。
- 轟教育委員 今回の要綱作成に伴い、受け入れるときに学校側では保護者や生徒への説明する必要がある。今後、こうした説明の仕組みについても徐々に整備していく予定があるのか。
- 事務局（両角） 受け入れクラスの児童や保護者には、誰がいつ一緒になるかといった情報が、学校から通常の連絡手段で伝えられる。
- 林教育委員 教科書やタブレットなどの学習教材の準備などはどのようにするのか。
- 事務局（両角） 今回の任意受け入れの場合は、学校に教科書があれば貸し出し可能であるが、ない場合は保護者が個人で調達する必要がある。また、タブレットについては予備機を活用できる範囲で対応していく。
- 林教育委員 海外駐在で一時帰国の児童は日本語が理解できるため、教科書やタブレットを利用可能である。しかし、日本語が全くわからない児童については、双方で確認し合うことが最も重要であり、対応をお願いしたい。
- 宮坂教育長 岡谷市立小中学校体験入学実施要綱（案）について、教育委員会として承認したいがよろしいか。
- 各教育委員  
宮坂教育長
- 異議なし —
- 本要綱の策定により、海外からの一時帰国児童生徒を岡谷市内で円滑に受け入れるルールが明確化された。これにより、保護者の意向にこたえつつ、学校側も通常運営と両立させて無理なく対応できる体制が整い、双方にとって実りある体験入学になるよう進めていく方針である。

## ○ 報 告

### 1. 令和7年度 学校完全閉庁日の設定について

<令和7年度学校完全閉庁日の設定について、事務局より No.2 に基づき説明>

- 太田教育長 職務代理者 夏季や年末年始の学校完全閉庁が定着してきたことで、現場の教員は働き方改革の一環として、休みを取れるようになったなどの反応があるのか教えていただきたい。
- 事務局（村松） これまでは日直当番を置く必要があり、電話対応や生徒対応で職員が1日中拘束されることもあった。しかし、閉庁日が明確に定められたことで、教員は非常に感謝している。
- 藤森教育委員 市役所の閉庁日を教えていただきたい。
- 事務局（荻原） 市役所も同じく12月27日から1月4日までになる。
- 藤森教育委員 留守番電話対応はどんな案内がされるのか。

事務局（荻原） 閉庁日には留守番電話の案内で市役所への連絡を促し、必要に応じて当直事務局（荻原）を通じて教育総務課の職員に連絡が入る仕組みとなっている。

## 2. 令和8年二十歳を祝う会について

<令和8年二十歳を祝う会について、事務局より No. 3 に基づき説明>

太田教育長職 恩師からのお祝いメッセージなどの企画が好評で、参加した20歳の皆の反応も非常に良く、会の雰囲気は年々向上していると感じられる。その流れが、今年の立候補者増加にもつながっていると思われる。また、YouTubeでの配信について、昨年の放映期間や視聴者数の把握状況を教えていただきたい。

事務局（伊藤） データは存在するが、本日は手元にないため回答できない。

太田教育長職 また分かれば教えていただきたい。

務代理者

## 3. 令和7年12月定例会の議案等について

<令和7年12月定例会の議案等について、事務局より No. 4 に基づき説明>

太田教育長職 美術考古館の指定管理者は、文化振興事業団に決定されたという認識をし務代理者 ている。

事務局（白上） 美術考古館の将来像策定にあたり、教育委員の皆様の支援のおかげで方針どおり指定管理者が決定され、現在も円滑に運営されている。今後もぜひ応援をお願いしたい。

## 4. 令和7年9月定例会の一般質問について

<令和7年9月定例会の一般質問について、事務局より No. 5 に基づき説明>

<質疑・意見等>

特になし。

## ○その他

### ・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

### ・次回定例教育委員会日程

令和8年1月9日（金）午後15時00分から市役所2階202会議室を予定

10時43分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 8 年 / 月 9 日

教 育 長

宮坂 享

署 名 委 員

藤原 一彦

署 名 委 員

林 慎太郎

調 製 職 員

白上 淳